

じろはっつんと大蔵小学校

- 2017.2 平成29年
木の葉の舟プロジェクト
6年生発案の木の葉の舟プロジェクトにより全校生で泰山木の葉にメッセージを書き宮城県山元町
- 2016.11 平成28年
泰山木寄贈
大蔵地域自治協議会により、校庭に泰山木の苗木を2本を寄贈、植樹。標柱もあわせて設置
- 2016.6 平成28年
唐招提寺訪問
6年生が修学旅行で奈良県の唐招提寺を訪問。講堂で長老を前に「じろはっつんの歌」を披露
- 2015.11 平成27年
森はな先生之像
第49代校長 斎賀正己氏のご遺志により建立。台座は大蔵地域自治協議会より寄贈
- 2015.10 平成27年
県小学校音楽研究会
県小学校音楽科研究大会にて4~5年生が歌物語「じろはっつん」を披露
- 2015.7 平成27年
市原悦子朗読会
市原悦子氏の「じろはっつん物語」の朗読会に4~6年生が参加、歌物語「じろはっつん」を披露
- 2015.7 平成27年
泰山木メッセージ作成、唐招提寺長老と顔合わせ
唐招提寺から大西長老が朝来市を訪れられ、じろはっつんのように香住で泰山木メッセージを流すと言う取組に協力し、4~6年生がメッセージを作成。長老に託す。
- 2014.1 平成26年
永野泉氏来校
宮城県石巻市でお弁当屋さんを営まれていたのだが、震災で店は全壊。後日、自宅を見に行ったらところ部屋の真ん中で無傷で見つけた本がじろはっつん。2012.7に西尾氏の活動を耳にし、交流が広がり、大蔵小学校への訪問も実現した
- 2012.5 平成24年
じろはっつん村地図標識板完成
加古川市立別府小学校児童来校
じろはっつんウォークの際、除幕式を行い案内板を披露。加古川から小学生が来校。一緒にウォーキングをする。
- 2011.11 平成23年
第1回じろはっつんウォーク村まつり開催
自治協議会主催で地区挙げてのまつりが始まる
- 2011.4 平成23年
泰山木メッセージ
加古川のNHK朝の連続ドラマ推進のグループの呼びかけに応え、宮城県山元町へ震災の被害者を励ますため4~6年生がメッセージを書き、自治協議会を通して送付
- 2010 平成22年
森はな先生の伝記をNHK朝ドラにの行動開始。署名活動へと展開
- 2010.4 平成22年
第2回じろはっつんウォーク
ミュージカル研究所劇団員による「ミュージカルじろはっつん」の野外公演が実現
- 2009.4 平成21年
第1回じろはっつんウォーク
じろはっつんゆかりの地図、読み聞かせ、歌、お米販売などユニークな趣向を凝らし、大蔵地域あげての開催となった
- 2006.9 平成18年
大型紙芝居開始
平成8年に結成された「じろはっつんの会」が、紙芝居を制作し、各所で上演開始
- 2002.1 平成14年
こんこんさまにさしあげそうろうへの曲付け
坂牛八洲氏に依頼し、作曲をしていただく。学校音楽祭で4・5年生が披露。さらに大蔵の運動唱歌のメロディーに歌詞をつけて披露。
- 2002.2 平成14年
梶山画伯来校
じろはっつんなどの挿絵の画家梶山俊夫氏を小学校に招聘し、講演していただく
- 1997.11 平成9年
ミュージカルじろはっつん公演
日本ミュージカル研究会により、ジュピターホールで上演
- 1995 平成7年
じろはっつんの像設置
町立図書館の建設に伴い、図書館の前庭にじろはっつんのブロンズ像を設置。梶山画伯による制作
- 1993.4 平成5年
森はな先生句碑完成
大蔵地区法泉寺前庭に句碑完成「蟹追いて授業中なるに帰り来ず」。小学生が式典内でじろはっつんの歌を披露
- 1992.8 平成4年
「もどってくる もどってこん」公演
和田山町と加古川市、姫路市が共同してプロデュース。子役として5~6年生から3名が選出され登場

- 1991.10. 平成3年
オリジナル歌物語「じろはったん」初上演
1998年に亡くなられた森はな先生を偲び、思い出に残るものをと5~6年生の代表が原作の中のせりふを抜粋して台本を制作。高砂市の坂牛八洲さんが作曲。原画展示会で初上演。
- 1991.6 平成3年
森はな先生の代表作の挿絵原画を町が購入
1991.3森先生の遺族から森先生の書簡、絵本原画などを姫路文学館に寄贈の意思が伝えられた。あわせて、画家、梶山俊夫氏の下には、和田山分として保管されていた。残存した代表作「じろはったん」「キツネとしゅんぺいじいさん」の挿絵の原画47枚を購入小学校で、図書館完成まで預かる
- 1990.11 平成2年
パレード「じろはったん」公演
坂牛八洲氏を招き、保護者参観日にあわせて実施。じろはったんのスライドと共にギターの弾き語りを披露。この年から、学校音楽祭で歌物語「じろはったん」を披露
- 1990.4 平成2年
西尾真里氏、和田山町へ初来町
森はな先生の死去を町長並びに教育長に伝えると共に、和田山としても森はな作品の継承に力を貸してほしいと嘆願され、快諾を得る。以後、積極的に森はな文学作品を日の目に当て始める
- 1989.6 平成元年
森はな先生死去
亡くなる前の年(1988.12)、法泉寺に森先生からの手紙が届き、「ふるさとに帰ってみたい ふるさとへかいらいたい いつもなつかしくなりません」との文面を送られている。亡くなるまでは年に3度はお寺を訪ねられていた。また、大蔵地域で森先生を招いての読書会を開催するなど、読み聞かせについての先駆者でもあった。

森はな先生

- 明治42年
和田山町宮田に中島信之助の次女として生まれる
- 大正5年
大蔵小学校に入学
- 大正13年
明石女子師範学校に入学
- 昭和3年
南谷小学校に勤務
- 昭和6年
大蔵小学校に転勤以後5年間勤務
- 昭和7年
大蔵小学校に勤務していた森種樹氏と結婚
- 昭和11年
高砂市立荒井小学校に転勤
- 昭和35年
高砂市立伊保小学校で退職 児童文学作品の制作に取り掛かる
- 昭和49年
「じろはったん」で日本児童文学者協会新人賞を受賞
- 昭和52年
森はなを囲む児童文学の会を始める
- 昭和54年
兵庫の民話を発表
- 昭和55年
「じろはったん」が毎日放送で放送され、芸術祭ラジオ放送部門で大賞を受賞
- 昭和57年
「こんこんさまにさしあげそうろう」が絵本につぼん大賞を受賞
- 昭和60年
8月12日、あの日本航空123便に搭乗していた長男秀樹氏を亡くす
- 昭和62年
神戸新聞社より平和賞を受賞
- 平成元年
6月14日、永眠